

Bibliophiles

ビブリオファイル No.9(2019年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館



『一度読んだら絶対に忘れない』

日本史の教科書 山崎圭一

現役高校教師にして動画の総再生回数が1200万回を超えたYouTuberの筆者。先に出した『世界史の教科書』が評判だったので、日本史の本も出ました！基本コンセプトは世界史の時と同じで、とにかく全くとってよいほど「年号」が登場しません。これは、歴史を「ひとつながりの物語」として読んで欲しいという狙いで、読んでいくと、年号やできごとの名前から覚えるのではなく、大きな流れとしての日本史が見えてきます。歴史が苦手な人はぜひ。

『小説 天気の子』 新海誠

観客1000万人、興行収入130億円を突破した映画の小説版です。筆者によれば、映画版と小説版は基本は同じですが、小説版は小説にしかできない表現上の工夫が色々なされているそうですから、映画を観た人ももう一度楽しめそうですよ。

『君の名は。』が大ヒットしたにも関わらず、世間からは『君の名は。』を批判する声ばかりが作者には聞こえてきました。しかし、そのことで逆に作者は吹っ切れて、「遠慮も付度も慎重さもなく」この作品を書けたのだそうです。お試しあれ。

『国立大学で工学を学ぼう』

国立大学56工学系学部長会議 監修

「固体」「液体」「気体」に次ぐ物質の第4の状態とは？そう、知ってる人は知っていますが、電離した気体であるプラズマですね。自然界では実は太陽も一種のプラズマですし、稲津やオーロラもそうです。これを工学では、プラズマテレビなどに応用します。プラズマ利用は電子工学ですが、このように、本書は国立の工学部ではどんなことが学べるのか、学問ごとにイラスト付きで詳しく解説します。国語科の先生方の選書です。

『はじめての著作権法』 池村聡

以下のうち、著作権料を払わなければ「アウト」の可能性が高いのは？

- ① 米津玄師の吹奏楽用楽譜を使って吹奏楽部の無料演奏会で披露する。
- ② 米津玄師のCDを吹奏楽部の部員全員で聴く。
- ③ 米津玄師のCDをコピーして吹奏楽部の部員全員に配る。

分かりましたか？正解は、③です。ちなみに①②は著作権の中でも「上演権」、③は「複製権」に関係しています。気になったあなたは、図書館まで。

『ストライカーを科学するーサッカーは南米に学べ！』 松原良香

日本のサッカーは「決定力不足」だとよく言われます。ではゴールを決められるストライカーにはどうやってなるのでしょうか？この本の筆者によれば「適切なエゴイズム」が必要なのだと言います。つまり「絶対に決めてやる」という思いだけでは、駄目だということです。その秘訣とは？

『マンガでわかる こんなに危ない!?消費増税』 消費増税反対 bot ちゃん

ついに始まりましたね、消費税率10%。国連の国際通貨基金(IMF)はこれでもまだ足りず、「少なくとも15%まで引き上げるべき」としていますが、この本の主人公・女子高生あさみはIMFを始め、こうした増税論者に理論武装して戦いを挑みます。巻末では京都大の藤井聡教授が、増税の危険性を詳しく解説しています。

『うちの旦那が甘ちゃん』 神楽坂淳

図書委員の選書です。歴史小説ですが、軽妙な語り口で小難しさはありません。今の警察にあたる「同心」の月也(つきや)は腕っぷしは強いのだが人情に弱く、すぐに犯人を逃がしてしまうので、付き人の「小者」が愛想をつかして辞めてしまう。そこで妻の沙耶は何と自分が小者になろうと決心し・・・来年の漫画化も決定しています。

『徴用工の真実』

今、日韓関係は悪化していますが、その原因のひとつはかつての日本が帝国主義に走り、近隣諸国に大きな爪痕を残したことを現地の国民がいまだに忘れていないことにあります。みなさんは劉連仁(りゅうれんじん)という中国人を知っていますか？彼は日本によって強制連行され(たと主張し

早乙女勝元

ています)、北海道の炭鉱で働いていましたが、虐待のようなひどい処遇に耐えかねて脱走、終戦にも気付かないまま13年間もの間、山の中を逃げ回っていました。この本は、ほかにも「韓国のジャンヌ・ダルク」と呼ばれる少女も取り上げたノンフィクション集です。かつての日本の「加害者」としての側面を読んでみましょう。



『足ながおじさん』

ジーン・ウェブスター、磯川 治一
孤児院出身の少女が主人公。ある匿名の人物から才能を見込まれて、彼女は奨学金をもらい大学へ行かせてもらいますが・・・結末のどんでん返しも有名ですね。今回は「対訳本」で買いました。左に原文の英語、右側に和訳が載せてあるので、英語学習にピッタリだと思いますよ。

今号のひとこと

これは奇跡じゃなく必然です。
ラグビーには奇跡なんてありません。

(Number887号より) 五郎丸歩(1986-)

「事件」は、ラグビーの前回W杯で起きました。その時点でW杯通算たったの1勝、W杯16連敗中だった世界ランキング13位の日本代表が、過去2回のW杯優勝経験を持つランキング3位の南アフリカ代表を34-32で破ってしまったのです。この事は、マスコミにより「ブライトンの奇跡」「史上最大の番狂わせ」などと報じられましたが、代表の五郎丸選手はラグビーは奇跡などで勝てるスポーツではなく、勝利は日ごろの訓練の成果だ、と誇らしげに語ったのです。その日本代表は、今度の大会でも記憶に残るプレーを見せてくれましたね。